

## Part2101 ◆ ニュース報道で登場するGDP統計—その1

「国内総生産（GDP）」という言葉は、テレビや新聞などの報道で頻繁に見聞きします。年単位はもちろん、四半期ごとのデータも発表されますし、数年前に日本のGDPを抜き、世界2位の経済大国に浮上した中国のデータも度々取り上げられているため、耳たこの方もいるのではないのでしょうか。

にもかかわらず、「GDPって何ですか？」と問われて正確に答えられる人は、そんなに多くはないようです。そこで、まずはじめに、GDPの定義を紹介しましょう。

### 1) 「国内総生産GDP」の定義

[Gross = 総, Domestic = 国内, Product = 生産] ですから、この順番通りに並べると「総国内生産」ですが、日本語では「国内総生産」で、次のように定義されています。

「国内総生産とは、

①一定期間内に、②国内で、③生産された、④付加価値の合計である」

①～④のそれぞれについて、詳しく見ていきましょう。

- ① 一定期間内 通常1年間です。  
前年と比較するなどの目的で、四半期（3か月）単位の統計も発表されています。
- ② 国内で 読んで字の如くです。日本人が生産した財やサービスであっても、外国で生産したものは含めません。
- ③ 生産された 株や土地の売却益などは、GDPには含まれません。中古品の売却益も同様です。ただし、株、土地、中古品などの売買取引における「仲介手数料」はGDP計算に含まれることとなります。仲介サービスという付加価値を生産しているからです。
- ④ 付加価値 中間財の生産額は含まれません。例えば1台200万円の新車が売れると、この200万円はGDPに含まれます。しかし、製鉄会社、ガラス会社、タイヤメーカーなどがこの自動車メーカーに販売した鉄、ガラス、タイヤなど（中間財といいます）の販売額は自動車の価格200万円の中に含まれますから、これらを別途GDP計算に含めることはしません。パンの製造会社に販売された小麦、牛乳、バターといったものも同様です。

以上が、「国内総生産GDP」の定義の主な要素（条件）です。ちょっと大変かもしれませんが、是非覚えていただきたいと思います。

実は、あと2つ（下記の⑤と⑥）あるのですが、これらについては後のPartでお話します。

- ⑤ 固定資本減耗を差し引かない
- ⑥ 市場価格で計算する

## 2) 世界各国のGDP

これは、あくまで参考掲載なので、覚えていただく必要はありません。  
総額は2010年(平成22年)の額で、単位はUS\$ (米ドル)です。  
国民1人あたりは2013年(平成25年)の額で、単位は同じくUS\$です。

|     |                | 総 額         | 国民1人あたり        |
|-----|----------------|-------------|----------------|
| 1位  | <u>アメリカ合衆国</u> | 14兆5,300億\$ | → 9位 53,100\$  |
| 2位  | <u>中 国</u>     | 5兆8,800億\$  | → 84位 6,750\$  |
| 3位  | <u>日 本</u>     | 5兆5,000億\$  | → 24位 38,490\$ |
| 4位  | <u>ド イ ツ</u>   | 3兆3,100億\$  | → 18位 45,000\$ |
| 5位  | <u>フ ラ ンス</u>  | 2兆5,600億\$  | → 20位 43,000\$ |
| 6位  | <u>イ ギ リ ス</u> | 2兆2,500億\$  | → 23位 39,570\$ |
| 7位  | <u>ブ ラ ジ ル</u> | 2兆 900億\$   | → 62位 11,310\$ |
| 8位  | <u>イ タ リ ア</u> | 2兆 500億\$   | → 27位 34,710\$ |
| 9位  | <u>イ ン ド</u>   | 1兆7,300億\$  | → 144位 1,500\$ |
| 10位 | <u>カ ナ ダ</u>   | 1兆5,700億\$  | → 10位 52,000\$ |
| 11位 | <u>ロ シ ア</u>   | 1兆4,800億\$  | → 51位 14,820\$ |
| 12位 | <u>ス ペ イン</u>  | 1兆4,100億\$  | → 28位 29,150\$ |
| 13位 | <u>メ キ シ コ</u> | 1兆 400億\$   | → 66位 10,630\$ |
| 14位 | <u>韓 国</u>     | 1兆 100億\$   | → 33位 24,330\$ |
| 15位 | <u>オーストラリア</u> | 9,200億\$    | → 5位 64,860\$  |

いわゆるG8(ロシアは、2014年ウクライナ問題で、事実上G8から除外されています)はすべて、総額で15位以内にランキングされています。  
しかし、いわゆる新興国の追い上げには目を見張るものがあり、2位に中国、7位にブラジル、9位にインド、12位~15位にスペイン、メキシコ、韓国、オーストラリアといった国がランキングされています。

ちなみに、G20とは、上記下線のG7に、アルゼンチン、オーストラリア、ブラジル、中国、インド、インドネシア、韓国、メキシコ、ロシア、サウジアラビア、南アフリカ、トルコ、欧州連合・欧州中央銀行を加えた20の国と地域のことです。

G7は、いずれも低成長の時代に突入していますが、中でもとりわけ経済成長が鈍っているのが我が日本で、1990年代後半からはほぼ横ばい、2009年のリーマン・ショックで減少しましたが、その後、やや持ち直しています。

ちなみに、下記の数字の一部はPart2102にも掲載されていますが、2004年、2010年、2011年の日本のGDPは次の通りです。

|                  |   |                  |   |                  |
|------------------|---|------------------|---|------------------|
| 2004年<br>(平成16年) | < | 2010年<br>(平成22年) | < | 2011年<br>(平成23年) |
| 4兆6,560億\$       |   | 5兆5,000億\$       |   | 5兆9,060億\$       |
| 496兆円            | > | 487兆円            | > | 476兆円            |
| 1US\$ = 108円     |   | 1US\$ = 88円      |   | 1US\$ = 80円      |

米\$, 日本円, 円ドルレートとの関係が、計算上正確に一致しないのですが、あまり気にしないでください。

ここで理解していただきたいことは、「円ベースで減少しているのに、米\$ベースで増加しているのは、この間、円高ドル安が進行したためである」ということです(なお、第2期安倍政権誕生後、円高は大幅に改善され、2014年5月現在は1\$ = 100~102円程度です)。

※このPartでは、例題、問題は設定しておりません。実際には、GDP統計に関する計算問題も出題されていますが、後のPartで展開します。